美郷町立六郷小学校　学校報

六郷 ～元気に輝いて～

学校教育目標
ゆたかな心　かがやくひとみ

令和６年度
第35号
2024.7.11

問題を解決しようとする意気込みが感じられました！～ 算数科授業研究会 ～

９日に、秋田大学大学院教育研究科の教授である〇〇〇〇先生をお招きして、１年竹組と４年竹組で算数科の研究授業が行われました。〇〇〇〇教授には、ここしばらく子どもたちの授業の様子を見ていただいていますが、今回の授業では、両学年共に子どもたちの問題を解決しようとする前向きでさわやかな態度が素晴らしいこと、また、若い先生方がよく考えられた授業を展開していることなど、お褒めの言葉をいただきました。

【１年竹組「のこりはいくつ　ちがいはいくつ」】

「プリンが８こあります。おさらは５まいあります。プリンはおさらよりなんこおおいでしょうか。」というのが今回の課題でした。算数を学び始めて３カ月の１年生ですので、「どちらが何個多い？」と問われていることが、たし算なのかひき算なのかは迷うところです。授業では、ブロックやおはじきを使って具体的な操作をすることによって、何個多いかをはっきりさせるとともに、「ひき算で求めればいいんだ！」ということを導き出していました。

授業には、わくわく園から園長先生と４名の先生方がお見えになり、子どもたちの学習の様子を参観していただきました。卒園してから３カ月ですが、小学校での学習にしっかり取り組んでいる様子を見てとてもうれしそうでした。園の先生方には、これからも子どもたちの成長ぶりを参観していただく機会を設けていく予定です。

【４年竹組「小数のしくみを考えよう」】

今回の課題は「5.76−3.2」や「6−0.42」など、桁数の違う小数の引き算の計算の仕方を考えることでした。筆算の手法だけに頼るとミスが多くなる問題ですので、あえて、計算の仕方（5.76を0.01が576個分、3.2を0.01が320個分と考え、576−320＝256というように整数で計算し、0.01が256個分で2.56と答えを導き出す考え）に着目させていました。子どもたちからは、計算の基本となるこの考えについての発表があり、計算の仕方についての理解が深まりました。

練習問題にもどんどん取り組む４年生からは、自らを高めていこうとする向上心も見られ、たくましさを感じました。授業で見られたよさを家庭学習にも結びつけ、さらに実力を高めてほしいものです。